

技能五輪で金メダル！

築港「むろ多」の仲川和馬さん、大阪の料理界で初の快拳

「受賞を励みに、美しい日本料理の道をさらに極めていきたい」。全国の若手技能者が年に一度、日本一を競う「技能五輪全国大会」（中央職業能力開発協会主催）の日本料理部門で、築港の日本料理店「割烹むろ多」の料理人・仲川和馬さん（三三）が見事、金メダル（厚生労働大臣賞）に輝きました。大阪の料理界では初の快拳。喜びに沸く職場を訪ね、受賞の感想や受賞につながった調理技術について訊きました。

「日本料理の素晴らしさを広めたい」と意欲さらに

◆「いい緊張感」への課題クリア

「第五十二回 技能五輪全国大会」は十一月十一～二十五日の四日間、千葉県の幕張メッセを主会場に催され、日本料理部門の競技は東京

都で二十四日に実施されました。各都道府県から推された二十三歳以下の精鋭約六十人が出場し、二十数人ずつの三グループに分かれて技を競いました。課題は、①小鯛活なます 姿盛り

②牛蒡と鴨の小袖焼き・菊花無甘酢漬け③羊寿司手綱巻き・蓮根甘酢漬け。

この三課題に仲川さんは「いい緊張感」をもつて臨み、①では「鯛が跳ねるような盛り付け」

を、②では「鴨肉のほぐし焼き加減」を、③では「海老と胡瓜と細魚の美しい巻き姿」をそれぞれ実現。競技過程を振り返って自分でも盛り付けはちよつと粗かつたかもしれないが、作業手順（流れ）や調理環境（清潔さや整理の度合い）はほぼ完璧やった」と確かな手応えを感じていましたが、果たして審査員からも「見事な包丁さばき」「無駄のない作業の流れ」「素晴らしい仕上がり」と絶賛を集めたのでした。

◆昨年の「銀メダル」から教訓

実はこの金メダルには伏線がありました。それは昨年の技能五輪への初出場でした。入店四



→技能五輪全国大会で出された3課題に仲川和馬さんが提出した料理。上から「小鯛活なます姿盛り」「牛蒡と鴨の小袖焼き・菊花蕪甘酢漬け」「羊寿司手綱巻き・蓮根甘酢漬け」

年目で不安もありましたが、店主の室田大祐さん（昨年度「なにわの名工」）や大祐さんの妻で女将の栄子さん、さらには先輩たちから「挑戦してみ。結果に関わらず、必ずプラスになるから」と勧められ、「出る以上はしっかりと練習して期待に応えよう」と出場を決めたのでした。

とはいえ初めての経験で動きは硬く、練習ではできていたことが半分もやれず、「制限時間ギリギリで、盛り付けも粗かつた」。それでも結果は「銀メダル」。自分では不本意な出来にも拘らず高い評価が得られたことに、自信と反省が相半ばしました。が、「これで満足したらあかんとの上昇志向を保ち続け、「こつこつしたらもっとスムーズにできる」「こつこつしたらもっと盛り付けられる」と試行錯誤を重ねたことが、今回の栄冠につながったのでした。

◆兵庫県から専門「学校」へ

受賞以後、職場の同僚からはもちろん、お客さんからも「すごいね」「ようがんばったな」と祝福を受ける仲川さん。生まれたのは一九九〇年一月、兵庫県の山間の町、神崎郡。JA（農協）職員の父と母のもと、三人兄妹の第三子

「技能五輪全国大会の競技に臨む仲川和馬さん（上）と、表彰台で表彰される仲川和馬さん（下）」



（次男）として育ちました。高校卒業後、阿倍野区の調理師専門学校に進み、日本料理の基本を習得。卒業して「むろろ」に就職。店の寮で単身生活しながら修業を続けています。

◆お客さんとの接触「楽しい」

職場では五年目。先輩と後輩に挟まれて毎日を送る仲川さんですが、現在、「むろろ」が持つ築港と北新地の二店舗のうち築港店を担当。そこでの日々の仕事は、朝九時、ランチ営業の準備や仕込みにかかることに始まり、十一時半から十四時までランチ営業、午後は夜営業の準備や仕込み、十七時半から二十一時半ごろまで夜営業、そのあと二十三時ごろ、遅い夕食を同僚ととることで終わります（途中、休憩あり）。

そんな日常の中、起床時の辛さなどを除いて

は特に「しんじようと思つてはななく、むしろ調理の喜びに加えて、お客さんとの接触も「苦」ならなく、むしろ「楽しい」と感じています。

◆「非の打ちよう無い」日本料理

高校時代に地元の日本料理人と交流があり、「調理や出前などを手伝った」ことから興味を抱き、高卒後は「迷わず料理学校へ進んだ」と



→店主の室田大祐さん⑤と女将の栄子さん⑥から祝福される仲川さん（むろ多）築港店で

いつ仲川さんですが、日本・西洋・中華と三種類ある中で日本料理を選んだのは、やはり高校時代のそんな経験から。「おいしいのはもちろん見た目が美しく、季節感があり、健康や長寿にもいい。総合的に見て、非常にバランスがとれ、非の打ちようがありません。和食が無形文化遺産に登録されたのも当然だと思います」。

その一方で、そうした総合的な美しさを持つ日本料理にはわずかの「手抜き」も許されず、いわば「完璧」が求められるだけに、そんな繊細な作業への緊張感を保ち続けることが「しんどい」といえば「しんどい」とも感じています。

◆「技術と知識兼ね備えた」料理人に

このように、喜びと共に厳しさも併せ持つ日本料理の道をひたすら進む途上で獲得した「金メダル」。どう受け止めているのでしょうか。

「大阪の料理界ではまだ誰も取ったことがない賞を頂いたことが、何より嬉しいかったです。店の主人や女将さんはもちろん、先輩や後輩、お客様、業界の方、それに家族も含めて、これまで自分を支えてくれた全ての人たちに感謝しています。今後は、賞をもらったことに慢心せ

←職場の先輩や後輩から祝福される仲川さん⑥



ず、目の前の仕事を一つ一つこなしながら、このお店で身に着けられる物は全て身に着けていくと思っています。またこの賞は若手に与えられるもので、あくまで一つの区切りであり激励と捉えています。ですから三十五歳以上による全国大会(隔年開催)への出場なども視野に入れて技術を磨きながら、ゆくゆくは、技術だけでなく知識も兼ね備えた、バランスのとれた料理人になり、世界に誇れる日本料理の素晴らしさを広く伝えていきたいと思っています」。

記者の質問に言葉を選びつつ慎重に答え、取材後は玄関まで見送りに出てくれた仲川和馬さん。最高の栄誉の中でもにじみ出るその謙虚で誠実な姿勢の中に、この若者を育てた店の将来、そして無形文化遺産ともなった日本食の未来も見えた気がしました。

あ さ や け

「玉玉も磨かねば錆びてしまう 朝夕心を磨きながら日々を生きよう」と「正直な人は後々まで希望は叶えられ 末永く栄えるだろう」「一人で出来ぬことは助け合いなさいお互い補い合いつて世の中は成り立っている」「満たされつつある時ほど謙虚さを忘れるな 稲穂が実ると頭を垂れて畦道を枕にするように」「老人の朝夕の言に真摯に耳傾けなさい 若い短い者の大話な言に侮るべきでない」▼「存在し沖縄民謡』ついでに『ぬ花』の日本語訳。一昨年、県民愛唱歌に指定された話題を呼びました。白感祝いを受けた成宮敏子さんと16歳の愛唱歌だといふほど遅れはせながら「ウィキペディア」(インターネット上の百科事典)で調べたところ、ついでに『ぬ花』 沖縄では古来その汁を爪に染めるという悪霊除けになると信じられていたといふこと、この歌は年長者の教えに従う大切さを説く「教訓歌」とされてきました▼十番半である歌詞の一部をいくつか並

べてみるだけで、沖縄の先人の知恵の深さ、港区にも多い沖縄出身者の温かさの源が見て取れます。驕らず、偽らず、争わず、助け合い、静かに己の内面を磨く―誰もがこのように生きれば、戦争も虐めも体罰も、オレオレ詐欺もブラック企業もなくなるでしょう。が、そうと承知しながらもどうしてもそうならないところが人の世の悲しさ▼そこで新年の提案ですが、この歌を沖縄県民歌に留めず、いっそ国歌に、いや世界歌にしたらどうですか。グローバル化を叫ぶのなら、いわへらいのことやらんこの先でもならんと思えますわ、ホンマ。

× × × × ×

「あの原爆の火の中を逃げて走った思い出が今更ながらに甦る」「身体にや傷もあるけれど心に傷はない苦だ」「あの故郷のこの大地僕はいつかと踏みしめて強へこの世を生きるんだ」。またも歌の話で恐縮ですが、一三年紅白歌合戦で一番感動したのは美輪明宏さんのこの『あの空の星のトビ』でした。①現代日本の荒廃に繋がる原爆の惨禍を今に伝えていぬのをこれに負けず強く生きぬ心意気を示して

いる③その生きる真盤は夫々の故郷にこそあると訴えている―と感じたからです▼と、ここへ急にタイムスリップして戦後間もない一九四七年、メーデー当日の皇居前広場へ。瓦礫と飢えと貧困の中、「生活を保障する最低賃金制を」「生産復興は働く者の手で」などのプラカードが林立し、「町から村から工場から働く者の叫びが聞こえる」と五十万人が声を合わせています。この日の空のような明るい表情が印象的です▼再び現代へ(忙しいな。形は違えど、やはり瓦礫と飢えと貧困が至る所に見られます。しかし巷に流行る歌は総じて自己沈潜的また自己顕示的で、声を揃えられるのは数えるほど。そんな中で雷鳴の如く響き渡った美輪さんの歌。「あの頃の逞しさをもう一度！と聴いたのは筆者だけでしょつかさやったりして」▼戦後も間もなく七十年。社会の真の幸福へ向かって万人の歌声が美しく調和する日がやがて来ることを願いつつ、紅白のあと銭湯で一年の垢を落し、除夜の鐘ならぬうさ花火の爆音の下を「こんな原爆文化に汚染されてたまるかいー」と走り帰った大晦日でした。

叫びたいよもー！

今月の提言者

ひぐち よう

樋口 曜さん(南市岡)



老後も未来もない！

介護保険大改悪に反対しましょう

「制度の根本から変える大改悪」といわれている次期介護保険「見直し」。学習する機会を得ましたので紹介します。

改悪の問題点は大きく四つです。

◆要支援を対象から外す

介護保険における要介護度は、要支援1～2、要介護1～5の七段階に分かれています。現在認定を受けている人のうち二七・四割、約一五四人が要支援です。

第一の改悪点は、「軽い」とみなされている要支援者への介護を現行の枠組みから外し、「地域支援事業」に移すというものです。そして、「このサービスの内容や価格、利用者の負担割合は市町村の裁量で決める」というのです。裁量ということは「やつてもやらなくてもよい」ということです。切り捨ては必至です。「コスト削減が厚労省の狙い」です。

社会保障審議会・介護保険部会では、「掃除や洗濯、買い物など家事の手伝いにホームヘルパーを使ったり、同世代との交流で「デイサービスに通ったりといった過剰な介護サービスは見直し」なごという表現が、何の疑念もなくなされています。果たしてそれらは「過剰なサービス」なのでしょいか？ サービスを利用してこそ支援の状態を保っている利用者が、とたんに要介護状態になってしまつていふ目に見えて

います。

◆特養ホームへの入所を制限

「終のすみか」といわれる特別養護老人ホーム(特養)は現在、要介護1・2の人が一割以上を占めています。

改悪点の第一は「要介護3以上しか入所できない」として、この人たちを特養から情け容赦なく締め出すというのです。

介護度は「軽度」であっても、独居、住環境の不十分さ、介護者の就労、介護者の障害・疾病、他の家族がまた介護を必要としている一等等、入所を必要とする理由はさまざまです。また、特に認知症などにより常時の見守りが必要な場合もあります。

特養に入所できなくなると、病院や老人介護施設を転々とせられ環境に適應できず認知症が進行する、介護・経済的負担が増すことで家族関係が崩壊する、自宅での生活が困難となった場合に格安有料老人ホームなどで貧困ビジネスの餌食にされる一など、さまざまな被害が予想されます。

◆利用料を2割に

「七〇・七四歳の現役並み所得の医療費自己負担は二割、介護保険に移行すると利用者負担は一割。他方、七五歳以上の高齢者では医療から介護へ移行しても一割負担のまま。整合性がない」。社会保障制度国民会議のこんな意見から利用者負担の見直しが始まり^{（注）}上ってきたそうです。

年をとれば収入も減るし、さまざまな病気が出るのだから当たり前。その高齢者の医療費を値上げしておいて「それと比べて介護保険は安すぎる」といっているのですから、全く納得できません。

現在、厚生労働省は利用者一割負担への値上げを目指して検討を進めています。「所得の高い者は…」と値上げを限定しているかのように報じられていますが、検討案で負担増の対象になっている所得基準は決して高くはありません。また、軽度者は大半が負担額が二倍に増える案が検討されています。

ひとたび手をつければ「二割負担が基本」となり、やがて「三割」まで上がる可能性があります。

◆貯金があっても居住費や食費は取の

施設入所の場合には、世帯の課税状況や課税対象の所得（フロー）^{（かんあん）}を勘案して、利用者負担となる居住費や食費について補足給付により助成を受けることになっています。

これについても「収入がなくても資産（家、貯金等）があれば、軽減しない」という見直しが始まっています。

◆ともに反対の声を！

高い保険料を払い続けた上に使えない、そのような改悪を許してはなりません。

厚生労働省は社会保障審議会・介護保険部会に「見直し」内容を示し、大筋で了承を得たとしています。今年、二〇二四年の通常国会には「見直し案」が提出される見込みです。

そこで港新聞読者の皆さん。国会で改悪案を絶対に通さないために、今こそこの問題に注目し、ともに声を上げましょう！

（NPOみなと同ケアセンター 南市西三
・六・二六、☎六五八三・四八八〇、FAX六
五八二・一一二〇）

あれこれガイド

●港区歯科フォーラム 日常何気なくしている良くない生活習慣をわかりやすく紹介し、全身の健康に役立つ情報を提供。「□から始める健康づくり」と題して中道哲さん（大阪府歯科医師会、産業歯科保健対策推進室員、「□から始めるアンチエイジング」著者）が、①お口と全身の関係お口の大切さ②歯・口の成り立ち③目から

ウロコの豆知識④歯・口の成り立ち⑤目からきた歯の知識⑥歯・口の弱りを防ぐ歯・口の予防はアンチエイジングだ⑦歯医者へ行くだけでなく出来ること（ハワツ）小さな習慣⑧などの内容で講演。二月二日（土）十四時半～十六時に港区民センターで。入場無料。終了後の十六～十七時には「歯科相談も。大阪市生涯歯科保健推進事業の一環。主催は港区歯科医師会、後援は港区医師会、港区社会福祉協議会、港区保健福祉センター。問い合わせは港区歯科医師会公衆衛生担当・岡本歯科クリニック（南市西三・五・三三、☎七四九・二二〇二）まで。

●第五回「あいちふくしまの」 一月十八日（土）十時半～十五時、あいちふくしま（港曙一・七・

四、市バス「港晴」停留所から歩二分、港晴小学校の西側、☎四三九五・七五八八、FAX四三九五・七五八九で。舞台発表（和太鼓、踊り、抽選会など）、模擬店（きただて餅など）、展示（あいさぶ工房や関係施設の紹介など）、焼きたてパン販売など。模擬店と焼きたてパン販売は十一時四十五分～十三時半。あいさぶ工房は、知的・肢体・視覚などの障害を二重三重に併せ持つ重度の聴覚障害者が、仕事や生活や活動を通じて、人としての豊かな暮らしや労働や社会参加を実現していくための施設。

●ムチ打ち（首・腰）無料相談会 交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。一月二十八日（日）十～十八時に行政書士のむら事務所（築港二・七・一・六〇八）で。一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで。「どついたら止当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール：info@jikkoo110-nomura.com、TEL：六五七六・六〇七八、FAX：六五七六・六〇七九。

読者コーナー

右傾化が心配

池島一・勝部素子80歳
（かつへやすおみ）

今では貴重な「戦争体験」。それを毎月目にする港新聞の読者には多言は要らぬ。

何しろ、今の日本は。リーダーが仮面を取って本性を表に出した、なんていうものじゃない。秘密保護法の拙速、強行採決、そして年末の靖国参拝。すべて一年前からの狙い。用意周到、保守層に「恩返し」ばかり、タイミングも何もあったものじゃない。党内の良識派（ハト派）もびくくりだろうが、戦争を知っている一般有権者は右傾化に眉をひそめる。

中・韓はもとより、同盟国の米国、EU（欧州連合）までもが日本を批判的に。これからの外交、どうやって進めていくのか。先々のことを考えずに自分勝手に事を進めて国民の期待を裏切り、総理本人、そして保守層の人々は何も反省しないのだろうか。

新聞の論調も「もつと怒れよ」と言いたいくらい弱い。どの新聞にも「首相日タ」などその日の総理の行状を分単位で書いた記事がある。

最近よく見かけるのは報道関係の幹部たちとの会食。各社話し合って、誘いがあってもこわったらしいだ。新聞・テレビは、時には権力者に立ち向かって行くのが一般人の認識だが、今や「ヘンは剣より強し」じゃなく「弱し」じゃないか。

世界から孤立して右傾化に歯止めなく進んで行きそうな現状。八十を過ぎた老人は、憂い深まるばかりである。

.....

道路への看板張り出し、何とかならぬか

市岡・70代M

地域の環境に関心があり、港区内でも色々な問題があることに気づき、その中で関係する官公署などに改善を求めてきました。その中で四～五年前、港警署の交通課へ対処を求めに出



→Mさんが撮影した港区内の看板張り出し例

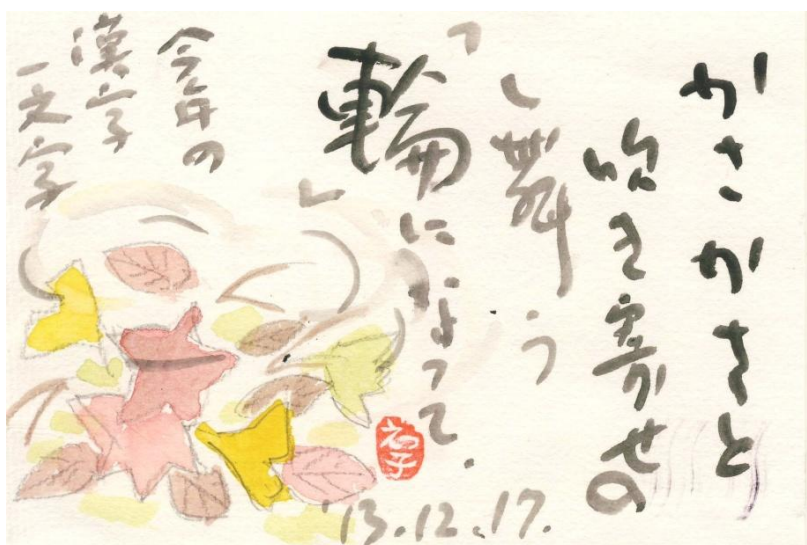
向いたことがあり「対処します」とは言われま
した。また最近（十月）も港区選出の市会議員
に対応を求めた「調査中」とのことでした。問
題ですが、道路への不法な看板の張り出しを何
とがしてほしいと思っています。区内に何力所
もあり、写真はそのほんの一部です。調べたこ
ろ、国の法律（道路法第44条）に罰則（五十
万円以下の罰金）付きの規定があり、明らかに
それに違反しています。それに何より、突風が
吹いた時など、通行する市区民の生命に危険を
及ぼすと思われます。今に始まった問題ではな
く、これまで特に実害は発生していませんが、
発生してからでは遅いので、そのなる前に善処
されることを願っています。官公署や地域選出
議員の姿勢も問われます。読者の皆さんはいか
がお考えでしょうか。

松田さん、竹下さん、悔いなき闘いを。

（発着・70年代）

毎月家まで冊子を届けて頂き、「二百五十円」
年契約の場合の一冊当たり＝編集費（部）といつ低
料金で地域の色々な出来事を知らせて頂き、本

「辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙



此に感謝しています。今日は「労働者は中から
やないー」(前号より)が心に留まりました。
アベノミクスでやうで「景気が良くなった」と
言われていますが、実際には、特に中小零細正
業は、そんな恩恵を全く与っていないのが現状

ていないのが、「この記事」によっても良く分かり
ました。むしろ大企業は、他の大企業との間の
競争を勝ち抜くため、「いつて」一層無慈悲に子
会社や下請けを切り捨てようとしており、そこ
には、これまで「生懸命働いてくれた労働者や
その家族のことを思いやる気持ちなど眼中にな
いように思われます。本当に嫌な、殺伐とした
世の中になったものです。そんな中で、泣き寝
入りせず「会社の都合で放り出すな」と声を
上げ、親会社の責任を問い続ける松田さんと竹
下さんの行動には本当に頭が下がります。五十
代といえは、冒険する年には躊躇する年代です。
にもかかわらず、おとなしく退職金を受け取っ
て次の就職先を探すという安全な道を選ばず、
「これは働く者みんなの問題や」と取って勝算
の不確かな道へと踏み出した勇気は超のつくほ
ど貴重です。私自身、中途半端な形で労働運動
に関わった時期があるだけに、よけいそう思い
ます。お一人には厳しい結果が待っているかも
知れませんが、支援の方々と力を合わせ、悔い
のないよう闘い抜かれることを期待しています。

大西史朗さんインタビューに好感

(池島・60代女性)

「地域のため30余年 区政功労 大西史朗（しろう）さん市民表彰」（前掲9頁）を読んで、表彰記事というのはあまり好きではありませんが、この記事のインタビュウでの大西様の受け答えはとても好感が持てました。特に「世のため人のためと構えて始めた訳ではない」といついこうが「正直だなあ」と思いました。考えてみれば、地域活動への関わり方は誰もがそんなもので、初めから「地域のため」と意欲に燃えて本格的に活動する人はごく少数だと思います。そんな中で大西様が偉いと思うのは、そのあじうじう、しかも色々な分野で長く続けられたこと、そして港区から世界平和を発信する活動（市岡日本語教室）までされていることではないでしょうか。読んでも出来ないことではな、市長から表彰されたのも当然だと思います。読み終わって、なぜか心が温かくなり、長年協力された奥様ともども「お世やめがたう」とお声をかけたくなりました。この記事をめづるがために読んでみました。

学ぶ所も多かった「池島ふれあいまつり」

(市岡・40代女性)

友人から冊子を譲ってもらって読みました。
「秋空の下に庶民の息吹いきばき 池島ふれあいまつり
に数千人」(前号18頁)が楽しかったです。
私も午後、子供を連れて参加しましたが、記事
の通り、すごい賑わいで、池島の方たちの団結
とパワーに改めて感心させられました。記事に
もあった「分別ぶんべつゴミ箱」に私も「ミミを入れます
たが、こんな風に、ゴミ箱ひとつにも改善を
図るところに、実行委員の方々の熱意や努力が
うかがえました。楽しいだけでなく、学ぶところ
も多いイベントでした。それだけに、最後に問
題提起されていた、地活協による運営への不安



→尾崎キヌ子さん（池島）からの絵手紙

予算面などでの厳しさは、私も地域で多少活動しているだけに、よく分かります。ぜひとも前向きに、いざまた同じような活動の場を活動仲間と共有し、解決していきましょうと願っています。

「若葉寛」の寛尾やうに港町の語ら

（分屈・50代女性・元教師）

「日本料理の美伝えたい なにわの名工若

葉賞 葛尾 優さん（前32頁）を読んで。

賞を獲得されたからといつより、日本料理とい
う、地道な努力が必要なものづくりの世界
で奮闘する青年の生きざまが、インタビュアーを
通して伝わり、心打たれました。特に、技能五
輪で上位入賞は成らなかったけれども、そのた
めの猛練習が今回の受賞につながったといつこ
とに「人間、結果に一喜一憂せず、やるべき努
力を続けることが大事」と納得させられました。
「季節感があり、目でも楽しめる」「怖さや難し
さも感じる」「日本料理は最高」など、日本料理
を語る高尾さんの言葉も、その道を真摯に歩ん
でいる者ならではの深みがあり、素敵に感じら
れました。そして、港区でこんな素晴らしい若

者が働いていようを誇りに思いました。いつも私の感想を載せて頂き、励みになっています。

「戦争体験」民族越えた親切に胸熱く

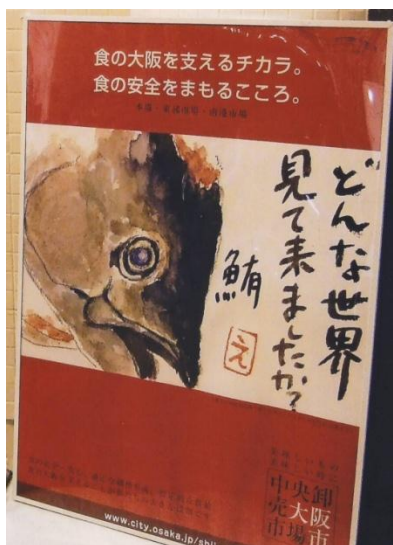
（南田岡・70代女性）

毎号、猪伏昌三様の「戦争体験」に心打たれています。今号（前号40頁）は、猪伏少年が働いていた鉄下所やブリキ屋の、民族を越えた親切に胸が熱くなりました。いくら相手が少年で、一生懸命働いてくれたからといって、ついつい間まで同じ日本人にいきめられていたのに、それは置いて、送別の宴を持ったり、饞別にパンを持たせてくれたりというのは、なかなかできることではありません。この「戦争体験」の最初の方では、これとは対照的に、現地の人の復讐（日本人街での略奪や放火）があり、それも無理からぬことだとは思っていましたが、それでも、人間というものは、特に庶民でついついというのは、本来はついつい温かい関係なのだ、改めて目を開かせられた次第です。苛酷な戦闘場面こそ出てきませんが、この「戦争体験」は本当に勉強になっています。

記事からパワー、私も頑張ったよ！

（市岡元町・辻悦子 64歳）

今年一年、区民の皆様方のひたむきに頑張っておられる記事を拝見し、パワーを頂きました。特に笑顔の写真は、一〇三年の漢字「輪」を感じさせてくれました。新しい年がそのように穏やかでありますように。それから、私自身のこの一年のトップニュースは、大阪市中央卸売市場主催の「絵てがみコンテスト」に出



→大阪市中央卸売市場主催の「絵てがみコンテスト」で入賞し、お寿司屋さんのポスターにデザインされた辻悦子さんの作品『どんな世界見て来ましたか？』

品した私の作品（「鮭」を描いたもの）がお寿司屋さんのポスターのデザインに使われていたのを会社の同僚が見つけ、教えてくれたことです。びっくりするやら嬉しいやらで、さっそく写真に撮ってきました。写真上。

『みなと通の灯』素敵な結末にじん

（区内・70代女性）

『みなと通の灯』（前号29頁）の結末が胸にじんと来ました。一九七六年の小川病院を舞台に、孤立的な生き方をしていた裕一が、人間好きな哲夫と悦子の兄妹に影響されて人間性を取り戻し、悦子と結婚し、一緒に学習塾を営み、悦子を亡くしてからも続けている。懐かしく、爽やかで、悦子の死はちよっぴり悲しかったけれど、裕一がそれまでの人生を振り返って発した最後の言葉に救われました。いつも通っているみなと通が、私自身お世話になった小川病院が、これまでと違った色に見えました。フィクションとはいえ心温まる素敵なお話をありがとございました。次も楽しみです。

地活協でこんな活動した

「まちづくりフォーラム」で検証



→各「地域活動協議会」の代表が発足以来の活動を報告・検証し合った「港区まちづくりフォーラム」Ⅱ12月6日、港区民センター

「これまでにない新しい地域活動組織」として昨年春に全小学校下で発足した「地域活動協議会」（以下「地活協」）の活動状況を報告・検証するイベント「港区まちづくりフォーラム」が十一月六日、港区民センターで開催されました。港区まちづくりセンター支部と港区役所が主催約一百人が参加し、各地活協からの報告や討論に耳を傾けました。

◆「自律的な地域運営」の場

第一部では田端尚伸（たののぶ）・港区長が「港区のまちづくり」と題して講演しました。その中で同区長は、①橋下市長主導の「市政改革」の一環として、平成十四年八月から「自治体型の区政運営」に取り組んでいる②区政会議など区民意見を反映する「区政運営」を横糸に、地活協による「地域運営」を縦糸にして「区民主体のまちづくり」をめざす③その実現に向けて「港区将来ビジョン」を策定し、まちづくりを進めていると説明。港区のまちづくりの現状と将来像の概略を示すと共に、その中で「地活協」は、②の「区民主体のまちづくり」における「自律的な地域運営の仕組み」であると説明。また、平

成二十八年年度の地活協への補助金総額は「平成二十五年年度とほぼ同額を確保」し、補助率についても「二十五年年度と同様の申請額であればほとんど影響がない」と強調しました。

◆「全住民の協働・連携」の場

それを受けて第二部では「地域活動協議会とは」と題して「港区まちづくりセンター支部」の金子明憲（あきのり）アドバイザーが講演。①地活協が必要とされるようになった社会的背景（生活様式や価値観の多様化、少子高齢化による担い手不足、「ミニミニ」の希薄化など）②地活協の仕組み（多様な課題に対応できるよう全住民が協働・連携、特定の人へ負担が集中しないよう任務を分担、行政からの補助金を一括化、組織や会計を透明化など）③同センターの役割（行政と地域の「中間支援組織」として地活協の活動を支援）などを示しました。

◆「地活協」のメリットを強調

以上の説明を受けて各「地活協」の代表が発足以来の活動を報告しました。この中で港晴地活協の報告者は、例年開催している「港晴フェスタ」で、これまで飲食など

を無料提供していた模擬店を初めて有料にし、金券によって二四二〇〇円の収益をあげたことを報告、「大成功だった」と地活協のメリットを強調しました。

築港地活協の報告者は、中学生から高齢者まで各層が安心して集える「ほっこり広場」を、地域住民からスペース提供などの協力を得て完成・開設できたことなどを報告。「これからも非行のない明るいまちづくりをめざしたい」と結びました。

市岡地活協の報告者は、四部会で任務分担し、エコキャンドルナイト、はぐくみ盆踊り、校庭キャンプ、防災訓練など多彩でぎめ細かな活動を展開していることを報告。「活発なPTA活動」という地域の特徴を生かした」と強調しました。

田中地活協の報告者は、地活協の組織を作り上げる中で、一丁に^た長けた若い人などが次々と見出され、会計が楽になったことや、リアルタイムで地域の様子や予定がつかめるようになったことを報告。「地活協で地域活動がパワフルになっていく」と強調しました。

二先地活協の報告者は、子育て支援活動や高

「活動を報告する各地活協の代表（上は港晴の福原さん⑥と南さん、下は池島の宮本さん）」



齢者食事サービスが継続していることなどを英語スピーチを交えて報告。「赤ちゃんから高齢者まで楽しく過ごせる地域にしたい」と抱負を述べると共に、「地域活動の担い手としてこんな若い女性（報告者の一人）が見出された」と地活協の効果を強調しました。

◆「地活協」への意欲を語る

八幡屋地活協の報告者は、各部会が分担して盆踊り大会、防災訓練、高齢者食事サービス、敬老大会、ラジオ体操などに取り組んだことを報告。「全ての人が安全・安心・生きがいを持って生活できる街」と意気込みを語りました。

南市岡地活協の報告者は、古紙回収の収益で

催した運動会で世代間交流が実現したこと、地域新聞を八号まで発行して書はれていること、情報交換にブログを立ち上げたことなどを報告。「まもなくホームページも立ち上げる」と今後への意気込みを語りました。

弁天地活協の報告者は、地域で海水浴に出かけたこと、オーク広場で盆踊りを続けていること、防災・防犯部会で避難訓練を実施したことなどを報告。「これからも各部会が分担・連携して地活協活動を進めたい」との意欲を語りました。

磯路地活協の報告者は、四部会の名前を「すこやか部会」「あんしん部会」など全てひらがなにしていること、AEDを磯路会館に設置する活動を通じて地域の弱点や課題が浮き彫りになったことなどを報告。「これは地活協だからこそできた成果だ」と強調しました。

池島地活協の報告者は、「池島ふれあいまつり」の主催に今年から地活協が加わったこと、この行事は内容の多彩さや準備の周到さによって港区最大級のイベントへ発展してきたことを報告。「既に地活協的な土壌が池島にはあった」と強調しました。

波除地活協の報告者は、各部会で分担して避難訓練や弁天町駅前^{（注）}の落書き消しなどに取り組んだことを報告。「これから子供の参加も視野に入りたい」と今後の展望を語りました。

◆「地域の総合力」発揮できる場

これらの報告を受けて、各地活協の代表二人ずつに田端区長と金子アドバイザーも加わり、金井文宏スーパーバイザー（大阪都市コミュニケーション研究室^{（注）}室長）のコーディネートで「パネルディスカッション」が行なわれました。

この中で金井氏が各地活協の特徴的な活動の秘訣を問ったのに対して、各地活協からは「活動の担い手を見つけるにはこれまで活動していた人の子や孫に目を向けることも有効」（二先）、「元気できめ細かな活動ができているのはPTA活動を基盤に、女性パワーを生かしているから」（市岡）、「池島ふれあいまつりが大規模イベントに発展したのは学校や子供を中心に取り組んできたから」（池島）、「ハートなど各分野の担い手は（部会）活動をする中で必ず見つかる」（田中）、「活発に活動できているのは校となり地域の共感を得られる人物の存在が大きい」

↑討論をリードする金井スーパーバイザー^{（注）}、田端区長^{（注）}、金子アドバイザー^{（注）}（写真上）と熱心に報告や討論を聴く参加者（同下）



（磯辺）などの発言があり、港区が全体として活発な地域活動を展開できていることについては田端区長が「壊滅的な震災からの復興や度重なる水害の克服、大規模な区画整理など、区の歴史に負つ所が大きい」と持論を述べました。

そして、これらの発言をまとめる形で金井氏が「港区民のほつろとした地域性と区役所の緻密な行政力、それをつなぐまちづくりセンター^{（注）}—支部（こ）という構図が見えてきた」（区長が各地域の強い所を生かして弱い所を補い、また古い組織と新しい組織が一緒にやっつけていく）で地域の「総合力」を發揮できるよつにすることが

地活協（の狙い）、金子氏が「スーパーマン（頼み）からみんな（の力）へ、というのが地活協（の活動の在り方）」とそれぞれ発言。フォーラムをしめくくりました。

◆「地域の特性」生かせる場

参加者の一人、熊本知子^{（注）}さんは終了後、「各地活協の報告を聴いて刺激になりました。例えば私たちの市岡はPTAが活発で、若い母親から色々な層へと活動が広がっているのに対して、団地が多くて工場や商業地が少ない池島では地域全体のまとまりが強く、池島ふれあいまつりのようなスケールの大きな取り組みがされていることに感心させられ、地活協はこつとした各地域の特性を生かせる場なのだと思ひました。その上で正直言つて、今日は私のよつなけこつ地域活動をしている者でも参加に躊躇^{（注）}いがあり、二先の若い女性が報告されている姿に安心して最後までいることができたものの、やはり女性や若い人にとって地域活動への敷居^{（注）}はまだまだ高いと感じました。今後はこつこつ層がもつと参加しやすい雰囲気を作るこつが課題のよつに思ひました」と話してこつました。

改憲策動に倍返しだ！

南市岡で「団結もちつき力強く



「苦しい時こそ餅のように粘り強く闘おう！」と力強く餅をつき続ける青年労働者たち！！
2月14日、南市岡の田中機械構内で

「餅のように粘り強く闘おう」「労働者と地域住民が力を合わせよう」「争議組合を応援しよう」と毎年末に行なわれてきた伝統行事「団結もちつき大会」が今年も十一月十四日、南市岡三丁目の「田中機械」構内で行なわれました。港区を中心とする中小零細労働組合・労働者の集まりである「港区同」と同もちつき実行委員会が主催、平和と福祉を掲げる特定非営利活動法人「NPOみなと」が共催。四十二回目となった今回は改憲許すな！「秘密保護法廃止！」「団結権確保！」「争議支部支援！」などがスロガンとして掲げられました。

◆地域と労働者一体で

餅米は、予約していた地域の人々が前日から水に浸け、午前中に持ち寄ったもの。それらを午後、労働組合が無料で煮し、搗き、丸めて手渡しました。「はいー」「はいー」「ようしゃー」など威勢の良い掛け声を発しながら石臼に向かつて杵を振り下ろす青・壮年労働者。ストーブの上の蒸籠の番をしながその様子を頼もしげに見守る高齢労働者。搗き上がった餅を台の上で手早く切り、丸めながら談笑する女性労働者。

働者。黄粉餅などをふるまわれて喜ぶ地域の参加者。厳しい寒気の中、労働者と地域一体の和やかな雰囲気印象的でした。

◆秘密法など危惧、闘争継続呼びかけ

午後一時からは労働者集会が開かれ、労働組合や平和・民主団体の代表らが約一時間に亘って次々とあいさつに立ちました。

この中では「特定秘密保護法」強行採決や原発継続政策、米軍基地固定化などへの危惧が共通して語られると共に、二十二年の長期に亘って労働者診療所の設立理念を巡って争われ、三月に労働組合側の勝利的解決を見た「南労会闘争」をはじめ、入れ墨問題を利用した大阪市職員弾圧への闘い、在日朝鮮人の民族教育への抑圧に対する闘争、非正規差別・女性差別に立ち向かった国鉄女性労働者の四十一年に亘る闘いなどの報告がありました。

そして、それらをまとめる形で、十月に港合同の新委員長に就任した中村吉政さんがあいさつに立ち、①地域で大きな闘争のない初めてのもちつき大会となったが、これも闘いの積み重ねの一つの表われだ②その一方、国内外では

安倍政権の暴走や橋下市長の横暴など反動的な動きが強まっており、労働者・庶民は闘いなしには生きられない」と現在の情勢を分析、「港合同は長年の闘いの蓄積で勝ち取った教訓や土地・建物などの財産を活用し、新たな闘争の歴史を刻んでいこう」と呼びかけました。

◆組合の力を実感

参加者のうち、元気に杵を振り上げていた労働者の一人（三十六歳、市岡在住）は福岡の昌一金属で勤続三年、職場では外注管理を担当している。



→「長年の闘いの蓄積で獲得した教訓や財産を活用して新たな闘いの歴史を刻んでいこう」と呼びかける港合同・中村吉政委員長（右）と、集会と餅つきが力強く同時進行する会場（左）

「この大会には労働組合員として毎年当たり前のように参加し、その中で元気をもらっています。前の会社にも組合はありましたが、形だけで、組合員間の話し合いもなく、労働条件なども会社の言いなりでした。しかし、うちの組合（港合同昌一金属支部）では、皆で社会情勢や会社への要求などをよく話し合い、団結して交渉に当たるので、例えば今年度の年末一時金交渉でも、思った以上の回答を引き出すことができました。そんなことを通じて、組合の力、団結の力を実感しています」と話していました。

◆苦しい時に元気をもらった

また、お喋りしながら餅を丸めていた松本静さん（六九、阿倍野区在住）は、この田中機械構内にある「NPOみなと合同ケアセンタ―」に勤務して八年の調理職員。それまでは松浦診療所（并大）のパート職員として十三年、正規職員として十五年働いてきました。

「松浦診療所時代には、解雇されかけた時に食い止めてもらったり、パートから正社員になる時に後押ししてもらったり、労働組合の力を身にしみて感じてきました。そんな中でこの催

「黙々と蒸籠の番をする高齢労働者（上）と、お喋りしながら餅を丸める女性労働者（下）」



しには毎年参加し、皆で餅を切ったり丸めたりしながら、苦しい時にも元気をもらってました」と話していました。

働く仲間の相談所
倒産、解雇、賃金不払い、条件切下げなど何でも
困ってませんか？
港合同（南市岡3-6-26）☎6583-4858

被災地農民を支援します。
反原発の声をあげよう！
ご協力下さる方はご連絡下さい
三里塚産直野菜の会
磯路2-3-9（三社神社そば）TEL.6572-0130

百歳祝い

成宮さんに首相と区長から記念品



→百歳を祝う首相からの賞状を娘の智栄子さんから見せられ喜ぶ成宮敏子さん 9月20日、築港の老人保健施設で（孫の昌史さん撮影）

「あなたが百歳の『長寿を達成された』とは誠に慶賀にたえません」。安倍晋三首相からこんな祝福の言葉を贈られた人が港区にいます。それが読者からの一報で分かりました。その人は市岡在住の成宮敏子さん。現在、築港の老人保健施設で介護を受けながら過ごしています。

◆「ありがとう」と感謝の言葉

娘の吉田智栄子さん（70）（市岡在住）によると、昨年九月の「敬老の日」、首相から賞状と記念品（銀杯）を贈られると共に、田端尚伸・港区長の訪問も受け、お祝いの言葉と記念品（膝掛け）を受け取りました。智栄子さんや孫の吉田昌史さん（四四）、同施設の職員ら数人に見守られながら、にっこりと微笑み「ありがとう」と感謝の言葉を返していたそうです。

◆沖縄に生まれ、横浜の紡績工場へ

敏子さんは旧姓「新垣」。大正（一九二二）年十一月十日、沖縄県那覇市に五人兄弟姉妹の第二子（長女）として生まれました。尋常小学校（今の小学校）を卒業して十三歳で横浜市に出鶴見区の紡績工場（紡績）で女子として働きました。昭和八（一九三三）年、二十歳の時、植木職人の成

→田端区長の訪問を受けて喜ぶ敏子さん（上）
まだまだ気丈で明るい敏子さん（下）



宮七蔵さん（明治三十八年横浜市生まれ）と見合い結婚。深まる戦争状態の中、「貧乏のどん底」にあった実家への仕送りもしながら家庭を築いてきました。

◆沖縄戦から子供

太平洋戦争さなかの同十八（一九四二）年、三十歳の時には長女の智栄子さんを連れて沖縄へ疎開。素麺（そうめん）づくりの職を得た夫を支えて暮らしましたが、同二十（一九四五）年四月には米軍が沖縄に上陸、猛烈な艦砲射撃や壮烈な地上戦の中、夫と共に、まだ幼かった智栄子さんを必死で守り抜きました。

◆大正区では水害や大火に

戦後、壊滅的な被害を受けた沖縄ではまとも

な職もなく、昭和二十三（一九四八）年、一家で大阪市正区の北恵加島へ移住。夫は鉄工所に職を得ましたが、同二十五（一九五〇）年にはジェーン台風による浸水被害に遭遇。同二十八（一九五三）年には近隣の大火で家屋を焼失。やむなく港区市岡二丁目の現住所地へ引越して来ました。

◆港区でも水害に

やむに港区でも昭和二十五（一九六〇）年、第二室戸台風による水害に遭い、「港地区復興土地区画整理事業」で平成四年による地上げなども経験。そして、昭和三十九（一九六四）年に夫を五十九歳で亡くしてからは、自宅に煙草店を開いて生計を立ててきました。

そうして年を重ねる中で、平成八（一九九六）年十一月にはMBSのラジオ番組『花束プレゼント』（煙草業界がスポンサー）に出演して八十三歳の誕生日を祝福され、智栄子さんから「とても愉快な母です」などのメッセージを受け取るという嬉しい出来事もありました。

◆明のへ辛抱強く面倒見がかった

智栄子さんの「ひなうい、敏子さんの美家は「ひ

昭和28年頃、夫・七蔵さん、長女・智栄子さんと旅行した時の敏子さん（上）と、平成8年、ラジオ番組で83歳の誕生日を祝福され、智栄子さんから花束を受け取る敏子さん（下）



めゆりの塔」にも近い、暖かで自然豊かな土地。そこで生まれ育った敏子さんは「とにかく明るい性格」で、辛抱強く面倒見もよく、横浜の紡績工場では、沖縄から一緒に来た五、六人の仲間や他県的女性たちからとても慕われていたというようです。

◆大好きな『ひなういの花』

高齢になってからも地域の人たちとよく溶け合い、カラオケが始めたころには「どんな桶や」などの元歌を飛ばしながら、小林幸子の演歌などを歌っていました。中でも故郷の民謡『

いんさぐぬ花』は大のお気に入りで、この歌を耳にするときずかチャーシーを踊り出すほど。□癖は「いつも明るくしてたらうていんさぐのよつに」赤くなるよ人生も明るくなるよ」。

現在、少々物忘れの症状も出てきましたが、よく食べ、孫や介護職員の顔もよく覚えていて、感謝や喜びの言葉もしっかり返しているとか。敏子さんの心の中には、いつも真っ赤なていんさぐ（鳳仙花）の花が咲いているのかもしれない。

ひとくち伝言板

●犬の里親になつて 生後約八カ月オス雑種。外で寒さに震えていました。大人しく、吠えません。 ☎〇九〇・五八九八・一九四五 松田。



健康・友愛・奉仕を推進

区老連が「老人クラブ大会」



→『健康』『友愛』『奉仕』の三大運動をいっそう進めよう」と確認し合った「港区老人クラブ大会」 11月29日、港区民センター

港区老人クラブ連合会主催の「第1回港区老人クラブ大会」が十一月九日、港区民センターで開催され、会員五百人以上が参加しました。

原田壽^{しゅ}会長が主催者を代表してあいさつに立ち、中学生ボランティアの参加も得ながら東日本大震災被災地への支援を果たした「第1回さんま祭り」（十月）など一年間の活動を報告、「これからも生きがいある地域社会をめざし、『健康』『友愛』『奉仕』の三大運動を進めていきましよう」と呼びかけました。

来賓の田端尚伸^{たはたしげのぶ}・港区長は「さんま祭りなどのアイデアと実行力に敬意。益々の活躍を、中保昌^{なかつたけあき}・大阪市老人クラブ連合会理事長は「社会保障見直しによる厳しい状況下、活発な活動



→主催者あいさつで「第2回さんま祭り」など1年間の活動を報告する原田壽会長

←会長勤続5年表彰を受ける時田伊佐市さん（上）と、ピアノ演奏をする区老連女性部（下）



で地域に元気を、武智虎義^{たけちこうぎ}・港区地域振興会会長は「苦も楽もエネルギーにできる訓練を経た人たちの集まりに励まされる」と祝辞。会長勤続五年の檀浦美智夫^{だんぷみちお}さん（磯路恒楽^{いそろこうがく}クラブ）、時田伊佐市^{ときでいさいち}さん（港晴回日葵^{ひまわり}クラブ）、山口薫^{かほる}さん（築寿会^{ちくじゅかい}）が表彰されました。最後に区老連女性部がピアノで「かえり船」などを演奏。美しい旋律に唱和が起りました。

会場には「戦中戦後の苦難を乗り越えた経緯を生かして地域社会に一層貢献しよう」という熱気が溢れていました。

試合に勝つ喜び！

ソフト45大会 優勝は田中子ども会



→低学年の子供たちも試合に出られる喜びを満喫した「第6回 港区子ども会ソフトボール45大会」11月2日、港高校グラウンドで

「選手の学年合計が四十五まで」というユニークなルールを掲げた児童ソフトボール行事「港区子ども会ソフトボール45大会」が十二月一日（日）、港高校グラウンドで開催され、十一チームが熱戦を展開、田中子ども会チームが優勝を飾りました。

●低学年にも活躍の場を

この大会は五年前、子ども会ソフトボールの関係者が「大会はどうしても六年生が中心になってしまつた」と問題点を話し合い、「スポーツをやりたい」という子供たちの意欲を大事にしよう「出場機会に恵まれない低学年にも活躍の場を与えてやる」と冒頭の運営規則を考案して発足。以後、実行委員会の主催で毎年続けられました。

●12チームが熱戦

六回目となった今大会には、区内の十一小学校の子ども会チーム（築港、港晴、八幡屋、池島、三光、市岡、南市岡、波除、市岡元町、井天、田中、磯路）と此花区の高見連合子ども会チームの計十二チームが出場。午前九時半からの開会式では、大会委員長の高橋忠晃さん（市

←寒さの中、開会式に整列した選手たち。このあと学年を越えてソフトボールを楽しんだ



岡が「寒さに負けず、ケガのないよう気をつけながら、元気にプレーを」と選手たちを激励。四チームずつ三コートに分かれての予選、続いて予選上位四チームによる決勝トーナメントが行なわれました。

●学年越えて楽しむ

←初優勝を飾った田中子ども会チーム①と、惜しくも準優勝だった築港子ども会チーム②



各コートでは、高学年男子投手のスピードボールに必死でバットを合わせる低学年女子選手

など、学年を越えてソフトボールを楽しむ子どもたちの姿が微笑ましく、指導者やチームメイトや保護者が「よかったよ」「どんまい、どんまい」などと温かな声援を送っていました。

●息詰まる決勝戦

夕方まで及ぶ熱戦の結果、決勝トーナメントの準決勝では築港が港晴に四対二で、田中が高見に二対〇で勝利。決勝では息詰まる接戦の末、田中が築港を二対〇で降し、初の頂点に立ちま

←3位に入った港晴子ども会チーム①と高見連合子ども会チーム「さくら」②



した。築港は二度目の栄冠を目前に一歩及ばず準優勝。港晴と高見が3位に入りました。

二位までのチームの監督・主将名は次の通り。
優勝・田中子ども会＝永井監督、小林主将▽準優勝・築港子ども会＝菅原監督、菅原主将▽三位・港晴子ども会＝橋本監督、松田主将▽四位・高見連合子ども会＝河本監督、落合主将。

歴代優勝チームは、第一回が池島、第二、三回が築港、第四回が池島、第五回が港晴。

この大会に関する問い合わせは大会委員長の高橋さん（☎〇九〇・九七〇・八・六四六七）まで。

スポーツ短信

●大阪・港ノイズ（少年硬式野球） 十一月八

日、六年生を対象にした「体験練習」を実施。元気一杯の練習ぶりが印象的だった。十一月はこの他、生駒登山や南支部運動会、OB戦などを実施。実り多い一年を終えた。一月は大阪・港ノイズ主催のソフトボール大会を予定。硬式に興味ある小・中学生の体験練習・入部説明随時。☎六五七一・六七五三スポーツさんわ又は☎〇九〇・八三八五・四八・五番西。

演劇ガイド

●あながいおまる一座スタジオ公演 夢の三部

作「拳下演」！ 交通事故や自然災害などを題材にした三つの物語『緒方さんの失敗』『折れた翼』『村は消えた』を通じて、中年男、若い男、若い女の人生が繋が（つな）り、絡み合（から）っていく。一月二十五日（土）、二十六日（日）に各三回（計九回）。料金上演スケジュールなど詳細や申し込みは会場の石炭倉庫（波除ハ・五・一ハJR弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右へ。☎八五八一・〇六八四）へ。

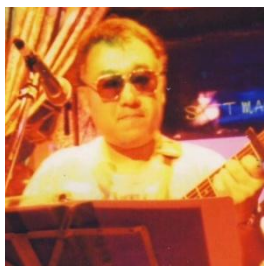
ライブ情報

●八幡屋出身ロックドラマー 桐田勝治さん きりたかつじ 日

本のビジュアル系ハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガーゴイル」の十五枚目のアルバム『奇獣』(「愚鈍」「命の傷」「夢果実」など十一曲)好評。三二五〇円。 ☎

〇三・三三八一・九一八〇ファーストセル▽二月十五日(土)十八時半から神戸チキンジョージ(☎〇七八・三三三・〇一四八)で、三月九日(日)十八時から奈良スバーランド(☎〇七四一・三六・一四三二)で、三月十五日(土)十八時半から大阪ロックタウン(☎六六三・一六九〇〇)で、所属バンド「ガーゴイル」のワンマンライブ

『春駒の矢』に出演予定。前売料金四十円。



↑桐田勝治さん(上)とメンバーさん(下)

●三先のフォーク歌手・ペドロさん 切断フラザ

ーズ(左手親指切断の共通体験を持つ)三人で二〇〇六年に結成)のリーダーやソロで温かな雰囲気のアリジナルフォークソング▽毎月第一・三木曜各二十時からザ・セラー(中央区西心斎橋一・一七・二三新スミヤビル地下、☎六二二・六四三七)で開催のフォークライブにレギュラー出演▽毎月第二火曜 千時からかつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町ゼンタービル二階、☎〇九〇・五八八・一七〇一)で開催のフォークライブに切断フラザーズとしてレギュラー出演▽毎月第二火曜 二十時半からロージー(中央区西心斎橋一・九・五)宝三ツ寺会館地下一階、☎六二二・三三九九九)で開催のノンジャンルライブにレギュラー出演。

●市国元町在住の音楽ユニット「花☆キアラ」

一月二十五日(土)十九時半からPick(奈良市三条町四九九・一F&Fビル2F、☎〇七四・一四・三三八八)で開催の「長野たかし・森川あやこ」ライブの冒頭に出演予定。チャージ二千円(ドリンク別)。

ひとくちPR

(1行11税込1000円)

●NPOみなと共同ケアセンター ①介護や老

いの相談に乗ります②介護の手続きを代行します③デイサービスは送り迎え付きで入浴・昼食・体操などを楽しみます④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院などのお手伝いをします。問い合わせはお気軽に☎六五八三・四八八〇へ。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今日号の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館(三三文化案内) 招待券をへア2組に。

●関西フィル「第253回定期演奏会」(三三文化案内)招待券をへア1組に。

●弁天シネマ倶楽部「紳士は金髪がお好き」(三三文化案内) 招待券をへア2組に。

●あながいおまる一座・夢の『三部作一挙上演』(演劇ガイド) 招待券をへア2組に。

●絵本「ゆらちゃんのおはかまごっこ」(読者が推せん・図書ガイド)を2名様。

ほっこりテンペラ画

ギャラリーはたなか「上月ひとみ展 好評



「ほっこり温かなテンペラ画などが好評だった
ギャラリーはたなか「上月ひとみ展」。畠中館
主と一緒には作品を案内する上月ひとみさん

「ほっこりした味わいがいいね」。港区役
所向かいの画廊「ギャラリーはたなか」で十二
月十二・十三日に開かれた「上月ひとみ展」
には区内外から多くの鑑賞者が訪れ、テンペラ
画を中心とした作品の素材で温かな雰囲気を楽し
んでいました。

◆素材で温かい「道祖神」など

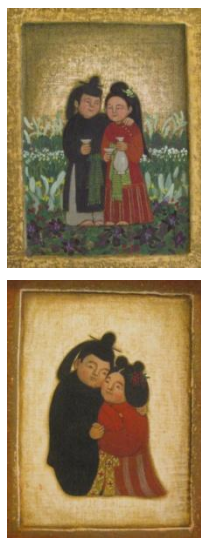
出品したのは奈良県在住の画家・上月ひとみ
さん(四一)。「わたしの小さな祭壇」と題して、
「道祖神」「女神」「つぎへ」「灯明」「聖母子」
「線香」「如来」「観音」「リンプ」「掃除」「托鉢」
など名付けたテンペラ画三十二点、アメノウ
ズメ」「ユミ」「なつと名付けた版画五点、「あ
はやなめ」など名付けた紙粘土作品三點、合
わせて四十点を出品しました。

これら数多くの作品の中でも大半を占めたテ
ンペラ画に来場者の関心が集まり、「フリュウゲ
ルみたいな雰囲気や」「素材で温かい感じがえ
え」「燦(きらめ)いたような色合いが気持ち落ち着か
せてくれる」などの声が上がっていました。

◆「ギャラリーはたなか」は五回目

上月さんは一九七二年、兵庫県加東市生まれ。

「道祖神」と題し、穏やかな表情の男女がゆっ
たり寄り添う姿を描いたテンペラ画の一部



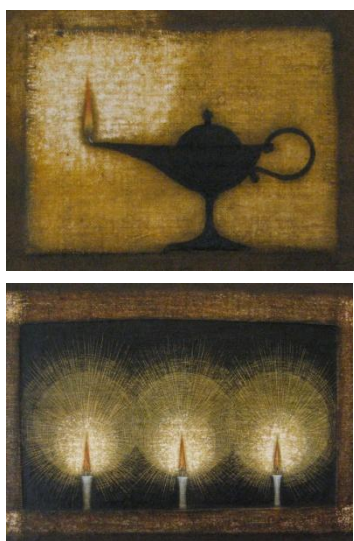
高校時代に兵庫教育大学の公開講座で講師の作
品に触れてテンペラ画に興味を抱き、金沢美術
工芸大学では油絵を専攻しましたが、三回生以
降はテンペラ画に集中。一九九四年に卒業後、
一九九八年三月にはテンペラ画を中心とした初
の個展をこの「ギャラリーはたなか」で開き、
好評を博しました。

その後、藤田保健衛生大学リハビリテーショ
ン専門学校作業療法科に学び、二〇〇三年に卒
業。作業療法士の仕事に就きましたが、数年後
には制作活動を再開。個展やグループ展を重ね、
「ギャラリーはたなか」では二〇〇五、二〇〇
八、二〇一〇年に続いて今回が五回目の個展。
また、この間の二〇〇八年には結婚して奈良
県桜井市に居(き)を移し、現在、自宅内の下で制
作を続けています。

個展最終日の十月十二日、上月さんは館中館主と一緒に作品を案内しながら、テンペラの魅力や制作の姿勢について、記者の質問に答える形で、次のように語ってくれました。

◆マットな感じに魅せられ

「テンペラ絵の具はアクリル絵の具のようで、少し違います。乾きが速く、扱いにくいけれど、艶を落としたマットな仕上がり、キラキラピカピカでない落ち着いた雰囲気は何ともいえず、それに魅せられています。ニス状の油と全卵を同量くらいずつ混ぜて水で溶き、様々な顔料で色を付けて作りますが、ちよつとマッスーを作るような感じです。それを面相筆



→ 緩やかな光が周りを照らす様子を描いたテンペラ画（上は「ランプ」、下は「灯明」）

に付けて描いていきます。細い面相筆は、細かな線や点を描くのに適しています」

「色々な描き方がありますが、今の私の場合は、まず鉛筆で下描きし、それに沿って、文机の上でじっくり仕上げていきます。アイコン（聖像）のような宗教的な作品が多いので、それ自分の世界で重宝し、楽しんでほしいという願いから、小品が多くなっています」

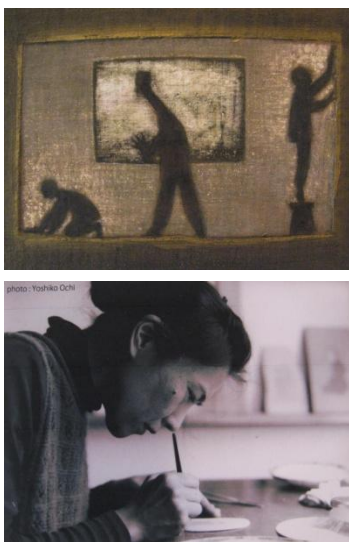
◆作業療法士の経験が役立つ

「個人的なことを申しますと、転機になったのは作業療法士の経験でした。人の身体の不具合を治すという重要な役割を持つ仕事ですが、その分、自身の心身の疲れも相当積み重なり、数年後、『ちよつと落ち着きたい』と離れたのですが、仕事の中で触れた人の痛みや苦しみ、不安や喜びは、その後の制作活動の貴重な肥やしというか、エネルギーになりました。そんなこともあり、今では自分自身が制作の中で癒されるだけでなく、『人を生きやすくする薬のように、人の役に立つ絵を描きたい』と思っています」

◆道端の道祖神をモチーフに

「それからもう一つ、個人的なことを申しま

「黙々と清掃する姿を描いた掃除①と、工房で制作する上月さん（越智喜子さん撮影）②



すと、五年前に結婚し、新婚旅行で信州の安曇野を訪れたのですが、その時に主人と道端で見かけた道祖神の温かな姿がとても印象に残りました。今回、道祖神をモチーフにした作品が多くなったのはそのため（笑）なんです、ハイ。

穏やかな表情で身体をゆったり寄せ合う男女、緩やかな光で静かに周りを照らす蝋燭やランプ、黙々と壁や床を磨く人たちの影……。色々な体験を潜り抜け、テンペラ画を中心とした絵画制作を続ける上月さんの現在の落ち着いた心境が読み取れると共に、観ているこちらも心がほつり安定してくるのを感じました。

銭湯テーマに推理喜劇

「子どもお笑い塾」が成果発表



「子どもお笑い塾」が「特訓」の成果を披露し、大受けした推理喜劇『サンタも一緒にいい湯だな〜』。11月2月23日、築港温泉

強烈ギャグやズッコケの連発に吉本新喜劇も真つ青。『お笑い特訓』を受けた子供たちが11月23日（祝）、「銭湯を守る」をテーマにした推理喜劇を演じ、会場の元公衆浴場「築港温泉」の脱衣場を爆笑と感動で包み込んだ。

大阪市出身の放送作家・砂川一茂さん（五）が「人を笑わせ、自分も元気に」喜劇はチームワークと「コミュニケーション」でと11月の休日を利用して「子どもお笑い塾」を開講。

小・中学生ら十数人を数回の稽古で集中的に「養成」した成果を披露したもの。

★架空の公衆浴場を舞台に

上演されたのは、港区の架空の公衆浴場を舞台にした『サンタも一緒にいい湯だな〜』。

——ここは大阪市港区にある銭湯「井太みなと温泉」。ある日、いつものように一番風呂を楽しみに常連客が訪れると、まさかの臨時休業。一体何が起きたのか？ 実はお客さんが減り続けて経営が成り立たなくなったのだ。クリスマスを前に、慌だしい年末の中、銭湯を愛する住民やサンタクロース、さらに、いつもはロッカー荒らしをする強盗たちまでが、地元の銭湯

「劇中ではプロ顔負けのコント①や落語②も登場（落語を演ずるのは4年生の阿部空也くん）



の存続を願って立ち上がった！ 何と、お客さんを集めるために「井太みなと温泉フェスティバル」と題する一大演芸イベントを繰り広げたのだ。近所の父子によるコント三題、主婦による中国語バリバリの歌、花屋のおばさんによる冷凍みかんのダンス、落語愛好家による落語二題、ロッカー荒らしたちによる「マ回し、トナカイによるものまね、サンタクロースによる手品」などなど、愉快な出し物が延々と続く。そしてみんなで主人に呼びかけた。「何とか銭湯を再開してもらわれんやろか」。奥さんも「あんだ、どつするのん？」。しかし主人は感謝しつつも「そつ簡単にはいけへんのや」。それでも「建

物は残してイベントなどを催し、地元の文化発信基地「すの」ことを約束した。残念に思いたがらも事情を理解した住民たちは、最後に「♪バンバンバンバンバン」♪「♪こは弁天みなどの湯ー」と『いい湯だな』の太合唱を繰り広げるのだった。

★「銭湯すの」のメッセージ

ミステリー風の筋書きにナンセンスギャグや集団スツコケなど、お笑いの要素をふんだんに盛り込んだ展開。そこから、地域住民の健康と交流の場となっているにも拘らず、利用客の減少から廃業が相次ぐ公衆浴場の存続と公的援助充実への願いを込めた「銭湯を守るっ！」とのメッセージを読み取ることができました。

子供たちが考え出したという数々のギャグの中では、住民が口々に銭湯の魅力を語る場面で「湯上がりの牛乳がうまい」など、まともな声に混じって出された「湯舟でおいしくするのが楽しみ」との台詞が大爆笑を呼んでいました。

◆チーム練習がプラスに

終演後、出演者に感想を訊きました。

落語家演じた「ワッチー」こと阿部士也く

←終演後にもお笑いが飛び交っていた記念撮影
①と、子供らの熱演に拍手を送る保護者ら②



ん(奈良県北葛城郡玉川町立玉川小学校四年生は、この「すの」もOH笑い塾にはお母さんに勧められて二回目の参加とか。一年生の時から落語の稽古に月一回ほど通っているそう、劇中では、堂に入った話しぶりで、落ちも鮮やかな落語を披露しました。台詞が多くて覚えるのが大変でしたが、みんなで遊びながら劇を作っていたのは楽しかったです。チームワークで笑わせる練習をしたことは(一人芸である落語にも)プラスになりました。将来は桂九雀師匠のような、優しくて面白い落語家になりたいと思っています」と話していました。

◆自分で決断して参加した

また、刑事を演じた「やんのすけ」こと石崎天由子さん(旭区の大阪市立新森小学校八年生)は「すの」もOH笑い塾に二回目の参加。観劇に来ていた両親の利哉さんと香津子さんは「吉本新喜劇などを観て、自分でもやってみたいという気持ちで、恥ずかしい気持ちとの間で揺れ動いているようでしたが、最後は『出たー!』と自分で決断したようでした。よく練習し、今日はしっかり演じていたので、点数を付けるのであれば、九十点かなと話していました。

◆子供たちの自主性を生かした

脚本・演出を担当した砂川さんは築港温泉の福田頼隆さんの「協力」を仰ぎ、初めて弁太町市民学習センターを飛び出しての公演となりました。今回もまたアドリブ重視のアバウトな演出、稽古少なめ、子供たちの自主性尊重による「ぶっつけ本番喜劇」でしたが、その面白さを味わってほしいという気持ちで話していました。

「すの」もOH笑い塾」についての問い合わせは弁太町市民学習センター(☎六五七七-一四三〇)へ。

一目で鷹を見上げている。互いに一歩も譲らず睨み合っている構図だ。幅と奥行きは約一呎、高さは一呎五十センチはじか。

「これだけ太い櫓をよく探しましたね。手に入れるのが難しいので、ほとんどの彫刻家は外国まで探しに行くそうですよ。若いが少しは芸術に通じた者だこの親しみを感じたのか、男は手を止めてこちらを向いた。頑丈そうな四角い顔に白髪半ばの短い頭髪。目に紀州人らしい穏やかさがあつた。

「この木は知り合いの神社の御神木やったでのし。雷で倒れて処分されるのを買い受けたんですよ。見ておるうちに何かが彫ってみようと思って、どうせなら縁起の良い鷹と虎を彫ったんですよ。けれども彫り出してみると、虎のスペースがなくなつて迫力が足りんようになつてしまひましてのし……」そんなことはありません。見事ですすよ、実に……。本章だった。

その言葉に気を配ったのか、男は「ちよつと休むかのし……」と呟きながら、体をこちらへ向けた。「あんだこの人やのし。見たことない顔やして」「大阪から仕事で来ている潜水夫で



す。こんな彫り物が好きなんです。美しい作品と聞いたら、少々遠くでも観に行きます。一科展には毎年行つてます」。そう聞くと、なお親近感を覚えたのか、男は少し考え込む様子を見せてから言つた。「……実は私、掛け軸を一枚持つてるのやして、見てくれなされるかのし」「ぜひ見せてほしいです」「そつかのし。ならちよつと待つてよ」。

男は十間から部屋に上がり、しばらくしてそこ何かを探しているようだった。夕刻の薄暗い空気のなか、他に人の気配はなかった。やがて男は庭へ出てくると、一枚の掛け軸を広げて見せた。相当古い年代の制作なのか、全体に薄茶がかつた渋い色調だ。その中に幽霊のようにつれた、しかしぞつとびくするほど美しい、白い着

物姿の女性が描かれている。

一目見て私は唖つた。「うーん……これは確か、江戸時代の田川応義の作ですよ。亡くなった実の娘をモデルに描いたといつ……。もちろん、専門家ではない私に、それが本物が偽物かの見分けはつかない。ただ、確かにこの絵はそんな口へ付きの制作過程を持つ絵なのだ。

掛け軸を手にしたまま、男は私の驚きを楽しむかのよう、目に微かな笑いを浮かべている。そして、私の知る、そんな簡単な調れよりももっと恐ろしく、奇妙な話を語り始めたのだ。

「応義は我が娘を自分の手で絞め殺してのし、その直後の姿をモデルに、究極の女性の美を描くつもりでした。娘も父の芸術のため、望んで殺されたんですよ。私は息を呑んだ。確かに絵の女性にはこの世のものとは思えない透き通るような美しさがある。が、その話が事実とすれば、恐ろしいことだ。それにしても、なぜそんな、美術史にも載っていない謂れをこの男は知っているのか。再び椅子に腰かけ、掛け軸を巻きながら、男は続けた。

(つづ)

高水準歌唱に大声援

区老連が恒例カラオケ大会



→ 高水準の歌唱に熱い声援が飛んだ港区老連カラオケ大会(写真は優勝した三辻たず子さん「雨のタンゴ」の熱唱)＝シルバー新聞社提供

熟年パワーが高水準の歌唱となって炸裂^{さくれつ}。十一月九日、港区民センターで行なわれた年末恒例「区老連カラオケ大会」(港区老人クラブ連合会主催)には区内の各老人クラブから精鋭^{せいえい}が出場。日ごろ鍛えた喉^{のど}を披露し、会場を熱気で包みました。

総合司会(山口薫^{かおる}総務部長)のもと、審査委員五氏と音響などの裏方^{うらほう}氏が紹介され、進行役の二氏(横山義行^{よしかぎ}・若葉会会長と行光^{ゆきみつ}・みなど元朗会会長)にバトンタッチ。審査方法(選曲)「人気」「歌唱力」の三点を基準に各審査委員が三十点満点で採点し、総合点



→ 一番手の緊張の中でも情感込めてじっくり『風こよみ』を歌い上げた竹内兼介さん(上)とパワフルな歌唱と台詞と身振りが会場の手拍子を誘った『暎^{まげ}の母』の岡島久子さん(下)

「ソフトな声で丁寧に『歩^ふ』を歌い上げ、格調ある詩の意味を味わわせた日高新吉さん(上)と、張りのある声と見事な小節^{こふし}で大スケールの『酒田港^{みなと}』を聴かせた木村友記さん(下)



で順位を決める^{きまめる}が説明され、熱戦がスタート。竹内兼介さん(市岡元町長生会)の情感込めた『風こよみ』を皮切りに三十四人が次々とマイクを握りました。

♪への執念^{しつねん}みせた各クラブ

いずれ劣らぬ歌唱力の高さと共に、歌い手の後ろで応援の踊りなどを繰り広げる各クラブの優勝への執念、音響機器の不具合や進行の不利^{ふり}際にも笑いやギャグで応じる会場の「老人力」、またトイレ休憩を二回挟むなど高齢者への配慮ある進行ぶりも印象的でした。

締めくくりに前年度優勝の直井千代江さん

「明るく爽やかな歌声で、熱く伸びやかな『紅』を聴かせた羽根田トヨ子さん(上)と、繊細な声質と正確なリズム感を生かし、情感も細やかに『女の暦』を歌い込む早崎美津枝さん(下)」



(天寿会)が『南国土佐を後にして』を、特別出演の歌手・藤かほりさんが『河内おこ節』などを披露、「さすがやなあ」と会場を唸らせました。

審査の結果、優勝は『雨のタンゴ』を歌った三辻たす子さん(南市岡寿成会)が獲得。準優勝は『晩の母』の羽室朝子さん(天寿会)、二位には『別れの波止場』の大森慶孝さん(第田中長寿会)が入り、敢闘賞には『博多川』の山下貴夫さん(港晴さくらクラブ)、「がんばったで賞」には『潮来花嫁さん』の西八重子さん(磯路クラブ)が選ばれました。

♪選曲・歌唱力・踊りで高評価

審査員から「選曲も良く、歌唱力も安定していた」「バックの踊り(タンゴ)も素晴らしかった」との評価を得、初出場ながら見事優勝に輝いた三辻たす子さん(七六)に感想を訊きました。

「もともと歌つことは好きで、普段は水森がありさんの演歌などをよく歌っていますが、大会では演歌が多いので、目先を変えた方がアピールするかもと、この歌を選びました。同じ南市岡寿成会に社交ダンスを習っている方がおられたのは幸運でした。一カ月ほどの間にそのお二人と一回ほど、レインコートや傘による演出や歌い方について意見を出し合いながら練習し



→ソフトな歌声とダンディな歌いぶりで聴衆を魅了した『夜明けのブルース』の松本洋昭さん(上)と、美しい高音を生かして情感豊かに『おけさ海峡』を歌い上げる溝口チエ子さん(下)

「ドスのきいた低音を生かして迫力と熱に溢れた『命くれない』を聴かせる藤谷 拓さん(上)と、透明な歌声と誠実な歌いっぷりが旅情と青春を感じさせた『踊子』の勝部泰臣さん(下)」



ましたが、愛する男性が小糠雨の中を寂しく去って行くという切ないイメージの歌なので、あまり声を張り上げず、抑え気味に、しつとり情感を込めることに重点を置きました。初出場での優勝は思ってもみなかったので、びっくりするやら嬉しいやら。バックのお二人はもちろん、応援して頂いた南市岡寿成会の皆さん、盛り上げて頂いた会場の皆さんに心から感謝しています。これからも、特に大会とかは意識せず、楽しく歌っていきたいと思っています」と喜びを語っていました。

どいぞす 1年の成果

老人センターで 教室合同発表会



→ 1年間の学びや練習の成果を発表し合った「教室合同発表会」11月11日、港区老人福祉センター（写真は最後を飾った「歌体操」）

「一年間の学びや練習の成果をみんなで楽しましよう」と十一月十一日、港区老人福祉センター（夕田）の各サークル・教室による年末恒例の「教室合同発表会」（同センター主催）が行なわれました。朝十時から午後四時ごろまで、民謡や民舞、ダンスや詩吟、歌謡曲や歌体操などが次々と登壇、年末の同センター大広間は終日熱気に包まれました。

◆爽快なダンス 格調高い民謡

発表会は三部に分けて行なわれ、冒頭の『よさこい鳴子踊り』（「民謡教室」全員）から最後の『歌体操』（「健康教室」歌体操グループ）まで、計八十一組が自慢の出し物を披露しました。このうち「ダンス倶楽部」のメンバー全員はマンボ『北の漁場』。北海の漁師の豪快な心意気を、軽やかなマンボのステップで表現し、見る者を爽快な気分（ひた）に浸らせてくれました。

また「民謡教室」の迎辺久男さんは岡山県民謡『忠義さくら』。津山市院庄を舞台にした後醍醐天皇と児島高德の故事を題材に、忠節の尊さを綴った格調高い歌詞を、詩吟を交えて丁寧に歌い上げました。

← 北海漁師の心意気をマンボのステップで爽快に表現したダンス倶楽部の『北の漁場』と、岡山県民謡『忠義さくら』で忠節の尊さを格調高く謳い上げた民謡教室・迎辺久男さん（下）



◆潑刺とした民舞 力強い歌唱

また「民舞サークル」の岡崎瀧子さんは大分県民謡『関の鯛つり唄』。海の難所で好漁場としても知られる速吸瀬戸（豊予海峡）での鯛の一本釣りの勇壮な光景を、法被姿まろりつゝ、潑刺とした手足の動きと明るい表情で表現しました。

また「歌謡クラブ」の檀浦義郎さんは『まつり』。日本の祭りの豪快な風景を、北島三郎ばりの堂々とした力強い歌唱で歌い上げました。

◆どいぞす民謡 リズムカルな踊り

また「民謡教室」の高村ツヤ子さんは隠岐民謡『新しげさ節』。島根県隠岐島の寂しげな風情と別れの辛さを、まっすぐな姿勢で発声で、じつくり丁寧に歌い込みました。

また最後に登場した「健康教室」の歌体操グループは、会場の参加者に深呼吸や指体操を「ーモナスにリードしたあと、陽気でリズムカルな『大阪すきやねん』の踊りで発表会を華やかにしめくりました。

◆卓球大会などの表彰も

なお発表会の前には、この一年間に開催され



→勇壮な一本釣りの光景を演刺とした動きで表現した民舞サークルの『関の鯛つり唄』⑤と、北島三郎ばりの堂々とした歌唱で『まつり』を歌い上げた歌謡クラブ・檀浦義郎さん⑥

た「センター杯」各大会入賞者の表彰式が行なわれ、卓球大会優勝の村上生良さん（男性の部）、小松君子さん（女性の部）、ビリヤード大会優勝の森好清さん、囲碁・将棋大会優勝の酒井孝一さん（囲碁の部）、白石健蔵さん（将棋の部）らが表彰を受けました。

◆民謡で楽しい老後

発表会の後、出演者に話を訊きました。

民謡『忠義のくち』を唄った民謡教室の迎込久男さんは池島在住の八十歳。長く鉄工所に勤め、ポンス（ハンチング）などの仕事をしていましたが、六十歳で定年退職し、現在は、チャリーディングなどをしている元気な夫人と共に楽しい老後を過ごしています。

「昔、町内や会社の運動会（親睦旅行）で『歌え』『歌え』と無理やり歌わされているうちに民謡に親しむようになり、かれこれ四十年になります。十四・五年前からはこの民謡教室で本格的に学ぶようになりましたが、器用貧乏なため、三味線や太鼓など何んでも手を出して遊んでいました。」

◆異性と触れ合う楽しみ

「まっすぐな姿勢と発声で『新しげさ節』を歌い込む民謡教室・高村ツヤ子さん⑤と、陽気でリズムカルな『大阪すきやねん』で発表会をしめくった健康教室・歌体操グループ⑥



またマンボ『北の漁場』、ワルツ『蛍の光』、ルンバ『恋は水色』など八演目に出演したダンス倶楽部の豊川欣也さんは磯路在住の七十八歳。社交ダンス歴は二十三年。同倶楽部の講師になって六年。港スポーツセンター（田中三丁目）でも講師を務めています。

「社交ダンスの魅力は、リズムに合わせて体を動かす気持ちよさ、そして異性と触れ合う心のときめきですね。初めての方でも無理なく始められますので、ぜひ一緒に楽しみましょう」と読者に呼びかけていました。

日本人の健全な心を養つ

『ゆらちゃんのおはかまいり』

「お墓参りを通して日本人の健全な心を養つて頂きたい」と二〇一一年秋に出版された絵本「ゆらちゃんのおはかまいり」が港区でも読まれ、「お墓参りの基本的な知識がやさしい文章で分かりやすく描かれていて、大人にも勉強になった」「イラストが可愛くて、読み聞かせしやすかった」などと好評を博しています。

ゆらちゃんのおはかまいり (田中在住の四十代男性) が原案と文を、イラストレーターはなかにし・



みんなでおそうじ いいきもち。
みんなも きれいになっていくみたい。



まなていさんがイラストを担当。ゆらちゃん一家が「おじいちゃん」と「おばあちゃん」のお墓参りへ出かける一日を通して「日本の家族行事」「家族の共同作業」としてのお墓参りの大切さを説き、「お供物」「お花」「お香」「お水」「お掃除」などの意味も、小さな子にも分かるやさしい言葉で表現されています。ストーリーの中では、お墓参りのあとでみんなが「とってもいいきもち」「すがすがしくなった」「たのしかった」と語をそえこんでいるのが印象的です。

著者はあながきび「ここに描かれているお話は、私の家族が経験していることを題材にしています」「明らかにした上で、ぜひおはかまいり、この本をおもしろく楽しく読みまかせたい」とあ

てくださいます。そして、みんなで「しあわせな気持ち」になつてくださいます。ほんとうの「家族のしあわせ」は、こんな普通のなげない暮らしの中から生まれてくるのだと思います」と保護者に呼びかけています。

宗教人類学者の佐々木宏幹・駒沢大学名誉教授が「日本人にとって、お墓は家族の分身であり、自分のルーツ」「家族でお墓参りをすれば、心が浄化され、絆が強化される」「無縁社会を有縁社会にするためにも、この本をぜひ全国の子どもたちに」と推薦文を寄せています。

B5判三頁。定価八百円十税。問い合わせは和泉石材の北條さん(077-5514519・六四まで)へ21頁に読者プレゼント



平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

いぶしししょうぞう

猪伏 昌二さん(元田中佳民 ⑨)



創作まで 昭和四(一九一九)年、北朝鮮の元

山に生まれた私は、中国大陸での戦火を背景に、

満州(中国東北部)東部の町・図們(トウメン)で

イエニチ

延吉で育った。対米英戦が始まり、戦争一色
の中学校生活を送った。昭和二十年八月、突如

のソ連参戦に緊張が走る中で敗戦。日本人街は

廃墟と化し、避難生活は悲惨を極めた。その中

で遭遇した満蒙開拓青少年義勇軍の悲劇は同

世代として胸張り裂ける思いだった。酷寒と貧

窮の中、伝染病で父を失い、豆腐売りなとしな

がら家族を支えた。二十一年八月、遂に引き揚

げが現実となり、現地の人たちの民族を越えた

人情に胸熱くしながら延吉駅を出発。まず吉林

めとして無蓋貨根のない貨車は進んだ。が、

途中、松花江の鉄橋は中国内戦の煽りで爆破さ

れて渡れず、皆の顔を動揺が走った。(本文は

回想録『平和の空へ 永遠に』から抜粋・再構成)

苦難の引き揚げ行

鉄橋爆破、略奪など乗り越え故国へ

この予期せぬ危機を脱することができたのは、

付き添いの国民政府軍(蒋介石軍)が作って

くれた筏でした。対岸が霞むほどに川幅が広

く、しかも濁流さかまく松花江を、荷物や馬

車も積んで渡河するには、相当の堅牢さが必要

でしたが、幸い周辺に幾らでも転がっていたド

ラム缶を集め、それらの上に太い丸太を何段に

も組み上げて筏は造られました。広さは貨車一

両分を上回り、一度に百数十人が乗れました。

そして、太くて頑丈なワイヤロープを西岸に張

り渡し、それに大きな滑車を二つ取り付けて筏

の前後につなぎ、たぶんモーターが何かの電力

も利用して、渡河は繰り返しされました。全員が

渡り終えるまで、先に着いた人たちも後に残さ

れた人たちも、両岸の河川敷の砂原で何日か野

営させられたのを記憶しています。

◆日差しと風、排泄の苦勞も

吉林市内からは三たび無蓋貨車に乗り込み、

見渡す限りの満州平野を一路、遥か南西に位置

する錦州を目指しました。この間、トンネル

はほぼなくなったものの、雨に打たれ、日差し

に焼かれ、強風に煽られ続けたため、車上で亡

くなる人も出ました。停車中に遺体を線路脇へ

埋めて線香を手向け、走り去る貨車から皆で合

掌しつつ見送る光景は、今更ながらに敗戦国の

哀れを感じさせたものでした。また当然ながら

排泄の欲求は切実で、何駅か通過すると数分間

時には二十分以上も停車してはまた走り出すと

いつ繰り返してしたが、停車のたびに皆が競つように飛び降り、発車の合図を気にしながら、適当な場所を見つけては用を足したものでした。

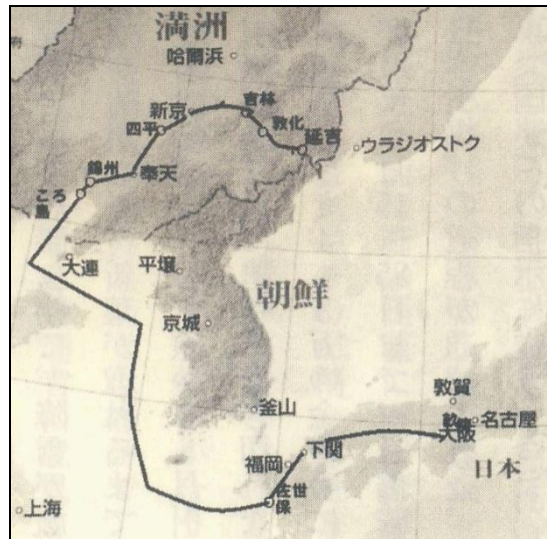
駅によつては中国人の物売りが饅頭や揚げ菓子などを売りに来ていて、それらを賣つて食べたり、少し長い時間停車すると聞けば、線路脇に竈を造り、米や菜など持ち交わすの穀物を炊いて食べたりもしました。また、原野の真ん中で訳もなく停車してしまつたことも二度ありました。中国人機関士がここから先はお金をもらわないと走れないと言つたのです。引率責任者が洪々皆から寄付を募つて渡し、やつと動き出す始末でした。

それでも、一つの駅が果てしなく続くかのような高粱畑や玉蜀黍畑、また地平線の彼方にゆつたりと沈みゆく真つ赤な夕陽を車上から眺める時、苦難の旅の中でもひととき、大陸の雄大な気手に浸れたのを覚えています。

◆カーブで荷物を奪われる

そうして新京（旧満州国の首都）、四平を経て辿り着いた奉天（満州事変発端の地）では、貨車に乗つたまま一泊しました。そして翌

「延吉からの引き揚げルート（図は佐世保港に上陸するコース。私たちは博多港に上陸した



朝、列車が駅を出発し、ほごなく左折カーブに差し掛かつた時でした。線路をわで待ち構えていた地元住民らが、はみ出たリュックなどの荷物を次々と鷹口で引つ掛けたのです。意表を突いた、しかも邦人の苦境に追い討ちをかけるような略奪行為に、皆の胸は怒りに震えましたが、列車を停めて追いかけるわけにもいかず、これからは荷物を外へはみ出さないようにしましうこと申し合わせるしかありませんでした。

◆錦州で見た中秋の名月

そんな事件もありましたが、列車は奉天から一三六キロという長距離を走破し、目的地の錦州へ到着しました。一行の疲れはピークに達していましたが、一方でいよいよ船に乗れる日も近いといふ期待に胸を膨らませながら、崩れて屋根のない煉瓦造りの收容所まで歩きました。

そして、ここで初めて今後の予定などを確認すると共に、身元調査などをして、かれこれ一カ月ほど過しました。その間に季節は九月となり、中秋の名月を迎えることになりました。摂氏零度近い夜寒に汗え渡る月影の下、これが大陸での見納めか、との感慨に重ねて、帰国熱は弥が上にも高まつたのを覚えています。

◆葫蘆島から万感の乗船

大陸最後の地、葫蘆島は錦州からさらに南へ六四キロあり、この間は四たび無差支貨車に揺られました。そうして到着した港には日本の客船・貨物船やアメリカのリバティ号など色々な船が待ち受けてくれました。帰郷先に応じて行き先がそれぞれに違つ船へ分乗するといふことでしたが、私たちのグループは博多に向か

う駆逐艦「春月」でした。

因みにこの船は、船員から聴いたところでは日本海軍最後の軍艦として前年三月に進水し、ほどなく敗戦を迎えたのですが、こうして引き揚げ業務を終えた後は「賠償」として国民政府に引き渡されるといっていました。

埠頭では長い行列を作って二時間近く乗船を待ちながら、風退治のためのDDT散布を米軍から受け、皆が頭から爪先まで真っ白になりました。そしていよいよ祖国日本に向けて艦へ乗り込んだのです。その時、誰か「もなへ、花散る野辺に陽は落ちて」と霧島昇の『誰か故郷を想わせる』が口ずさまれ、瞬く間にそれは広がり、期せずして船上の大合唱となりました。敗戦直後は、歌を忘れたカナリヤになっていた私たちが「故郷」や「赤いんば」などを自然と口ずさむようになったのは帰国が現実になってからでしたが、この時の皆の心境に一番合ったのは、何となくこの歌でした。

やがて船は棧橋を離れ、小さな湾内を一周しながら、どんな曲名だったか、今となっては忘れてしまいましたが、ひびく哀調を帯びた

← 葫蘆島からの引き揚げ風景 昭和21年夏か



メロディーを流し続け、それに刺激されたかのよつに、私の頭には大陸での悲喜も何もが走馬灯のよつに巡ったのを覚えています。

◆島影に歓声、故国目前に水葬也

船は渤海、黄海を抜け、三日月には対馬海峡から玄界灘に入りました。荒波でさすがの駆逐艦も大きく揺れ続け、酔っ人が続出しました。

が、夜明けに日本の島影が見えると船上で一斉に歓声が上がりました。恐らく母らには「故郷に帰り着いた」という感慨が苦しいほどに込み上げたでしょう。が、大陸で生まれ育った私には初めて目にする日本の姿であり、何というか、異国との遭遇でも称した方がよいような不思議な感覚に包まれ、感激というよりは「父が育てていた盆栽のよつだ」という形式的な印象の方が強かったように記憶しています。

こうして泊三日の船旅は終わるつもりでしたが、この僅かの間にも長旅の疲れなどから故国を目前に力尽きる人がいました。遺体は船舶の衛生規則で船上に留めるところはできず、黄海の仁川沖あたりで水葬に付されました。甲板で簡単な儀式を執り行ない、狐で包み、花束と共に海面へ投棄されましたが、その際に船長は汽笛を二声、三声と鳴りつけてくれました。そしてようやく到着した博多港でしたが、なぜが上陸できず、洋上に留まることになりました。この年三月、広東からの引き揚げ船内でコレラが発生したため、日本の港では厳重な検疫体制が敷かれていたのでした。(つづ)

三文化案内

●交通科学博物館 ①さよなら企画展Part

1952年の軌跡展Ⅱ同館が昭和二十七年に誕生し、閉館するまでの約五十年間に、移り変わる時代や交通体系の中でどんな活動をしてきたかを振り返る、最後の企画展。「始」「夢」「活」「進」の四分野に分け、開会式招待者名簿、同館展示計画、ベルX-1エンジン、0系新幹線電車・キハ81形ディーゼルカー搬入写真、收藏資料・パンフレット類などを展示。四月六日(日)まで開催中②保存車両大公開ⅠⅡⅢはく乗り物大公開編Ⅱ閉館にあたり車両整備を終えた屋外展示場の車両や、普段公開することのなかった実物車両などを公開。車両内部が見られる最後のイベント。公開されるのはEF52形電気機関車1号車、0系新幹線電車(先頭車・グリーン車・ビュフエ車)、スシ28形301号食堂車、マロネフ59形1号寝台車、80系電車(制御車)、キハ81形ディーゼル動車3号、国鉄東名ハイウェイバス1号車、エアロ・コマUNDER680F型(航空機)。三月三十日(日)までの日曜日及び三月三十一日(金祝)・三十一日

(土)・二十九日(土)の十時半〜正午と十三時〜

十七時。公開スケジュールは問い合わせを③展示用模型蔵出し大公開展Ⅱキハ80系気動車、10系客車(以上1/20)、EF80形電気機関車(1/15)、チ300形貨車(1/5)など大きなサイズの鉄道模型を約二十点。四月六日(日)まで第八室で開催中④パノラマ運転Ⅱ平日三回、土日祝日五回Ⅲ十時入館、月曜休館(祝日なら開館)翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし、春休みは開館。高校生以上四百円、四歳〜中学生五百円。JR井田町駅すぐ。 ☎八五



→「52年の軌跡展」に展示予定の写真。上は「入館300万人達成記念セレモニー」(昭和46年)、下は「みんなで入館」(昭和38年頃)

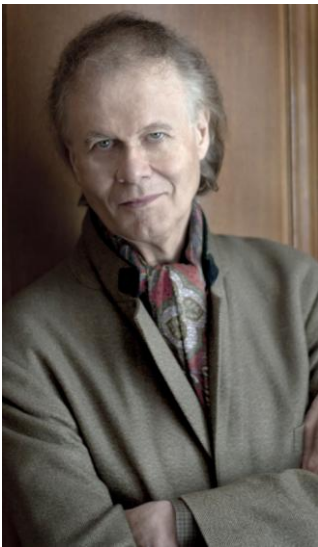
ハ一・五七七一。

●港図書館 ①図書館コンピュータシステムの

入れ替えに伴いサービス内容が変更Ⅱ①貸出点数が一人十五点までに(うちDVD・ビデオ・CD・カセットは合計五点まで)②インターネットサービスをリニューアル(インターネットから十五点まで予約可。暗号カードは廃止)③図書館カードを一人一枚に(二枚以上持っている人は順次一枚にまとめていく)など(詳しくは同館へ)②図書展示「大阪を舞台にした小説」展Ⅱ月二十八日(金)まで開催中③あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(一月は七日)の十一時〜十一時半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要④おたのしみ会Ⅱ毎週水曜十五時半〜十八時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要Ⅴいずれも問い合わせは ☎八五七六・一三四六 港図書館へ。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第253回定期演奏会」 「バスターレー」：巨匠「アユメイ

のベートーヴェン」と題して、今世紀最高のヴァイオリニストの一人であり同楽団の音楽監督でもあるオーギュスタン・デュメイさんが、「田園」で二〇〇八年神戸の名演を再現すると共に、一〇年ロシיתיボー国際コンクール、二年エリザベート国際コンクール（共に二位）で躍脚光を浴びた若きヴァイオリニスト、成田達輝さんと夢の共演。演奏曲目は、①ロッシェーニ「セヴィリアの理髪師」序曲②パガニーニヴァイオリン協奏曲第一番「長調作品」6（成田さんがヴァイオリン独奏）③ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」へ長調作品68。二月十二日（水）



→指揮を担当する関西フィルハーモニー管弦楽団音楽監督のオーギュスタン・デュメイさん
 (©Thibault Daguzan)

→ヴァイオリン独奏を担当する成田達輝さん
 (©Masashige Ogata)



十九時からザ・シンフォニーホール（JR大阪環状線「福島」駅から徒歩七分）で。S席五千元、A席四千元、B席二千元、学生席千円（全席指定・消費税込）。 ☎六五七七・二三八一。

●**弁天町市民学習センター「春一番」雅楽コンサート**

「日本最古の音楽」にして「世界最古のオーケストラ」といわれる雅楽ガガクを、天理大学雅楽部による多彩な演奏と分かりやすい解説（歴史・楽器など）で楽しめる。一月十日（日）十四時からオークホール（オーク200六階）で。小学生以上。先着二百名（要予約）。入場料は高校生以上千五百円（前売千二百円）、小・中学生七百元。申し込みは来館か電話予約かインターネット予約で。詳細は☎六五七七・一四

三〇同センターへ。

●**弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部「紳士は金髪がお好き」**

「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と同センターが企画した上映会の三十二回目。マリリン・モンロー主演の華麗なミュージカル・コメディ。「お金持ちが大好きなローレライ（モンロー）と、姉御肌の親友ドロシー（J・ラッセル）は、ニューヨークで人気のショール・ガール。ふとしたことから二人でパリ行きの船に乗り込み、楽しい船旅になるはずだったが、事態は思わぬ方向へ。

監督はハワード・ホークス。一九五三年アメリカ。カラー、九二分。一月十五日（土）十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円（前



→弁天シネマ倶楽部「紳士は金髪がお好き」から

売五百円)。定員は各回先着のみ。当日十一時三十五分ごろからロビーで「銭太鼓 彩の会」による無料ライブを予定。詳細は☎八五七七・一四三〇同センターへ。

●シネ・ヌーヴォ「生誕110年 映画監督・清水宏」 「天才」と呼ばれた伝説的巨匠の生誕百

十年を記念して一月二十五日(土)〜二月二十八日(金)に関西では初めての特集上映。清水宏は無声映画時代に松竹の助監督などを経て一九二四年、二十一歳の若さで『峠の彼方』で監督デビュー。センチメンタルなメロドラマや明るく朗らかな娯楽映画の代表、また早撮りの名手として知られた。本格的なトーキー時代を迎えた一九三六年に『有りがたうさん』を発表、全編ロケーションで撮る「実写的精神」が絶賛され、以後、自然の情景の中で演技を發展させる手法を徹底的に追求。大部屋俳優や素人を多用し、「子供をうまく使つ監督」としても名を馳せた。戦争が深まりゆく時代にもその手法は貫かれたが、一九四三年、「横暴な性格」を理由に松竹大船撮影所から追放。戦後は隠遁生活の後、独立プロを立ち上げ、戦災孤児たちを主人公に

←清水宏監督の戦前の作品から『有りがたうさん』(上)と『花形選手』(下)の各一場面



した『蜂の巣の子供たち』で復帰。その後も新東宝や大映で、療養施設を舞台にした『しいのみ学園』や母と子の関係をテーマにした『母のおもかげ』などの秀作を発表。晩年は心臓病の養生を兼ねた悠々自適の生活の中、一九六六年に六十三歳で他界。長く「忘れられた巨匠」だったが、一九九〇年代後半から再評価の機運が高まった。私生活の面では田中絹代との「試験結婚」とその破局、巨匠・小津安二郎との生涯にわたる親交、戦災孤児との共同生活などが有る。その生涯に手がけた全二六三作品から次の二八作品を上映。『岐路に立ちて』(一九三〇年)『泣き濡れた春の女』(三三年)『有りがた

うさん』(三六年)『花形選手』(三七年)『風の子供』(三七年)『按摩と女』(三八年)『信子』(四〇年)『みかへりの塔』(四一年)『歌女おぼえ書』(四一年)『團栗と椎の実』(四二年)『暁の合唱』(四二年)『誓』(四二年)『サソリの鐘』(四三年)『蜂の巣の子供たち』(四八年)『小原庄助さん』(四九年)『母情』(五〇年)『その後の蜂の巣の子供たち』(五一年)『桃の花の咲く下で』(五一年)『大佛さまと子供たち』(五二年)『奈良には古き佛たち』(五三年)『もぐら横丁』(五三年)『しいのみ学園』(五五年)『次郎物語』(五五年)『何故彼女等はそつたか』(五六年)『母を求めろ子ら』(五六年)『踊子』(五七年)『母の旅路』(五八年)『母のおもかげ』(五九年・遺作)。当日一般千四百円(大学生千二百円、シニア千円、高・中・小学生八百円)。毎月一日と毎週水曜日は誰でも千円、祝祭日除く毎週月曜日はペアで千円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一・二〇・二四、地下鉄九条駅⑥出口歩三分、☎六五八二・一四二六)へ。